

◆ 今週のコメント

- ・ 麻しんの報告が1例(30歳代, 女性)あります。京都市衛生環境研究所では、麻しんの診断を確実にし、感染源を特定するため、ウイルス株の解析を行っています。医療機関におかれましては、届出の際に、検査検体(咽頭スワブ, 抗凝固剤入り血液, 尿)の提供に御協力をお願い致します。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、9.56(392例)で、2週連続して増加しており、第14週から過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢では、1歳が19.1%(75例)と最も多く、0歳～5歳で72.5%(284例)を占めています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は、1.88(77例)で、4週連続で増加しています。年齢階級別では、1歳(23例), 3歳(14例), 2歳(13例), 4歳(9例)の順に多く、1歳～4歳で76.6%(59例)を占めています。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は、0.41で、先週(0.10)に比べ、また、同時期の過去5年平均値(0.20)をも上回っています。例年、夏季に流行ピークが見られますので、動向に注意してください。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、1.63(67例)で、先週(0.68)の2.4倍となっており、本年度で最も多くなっています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 五類:梅毒(無症状病原体保有者) 1例(第14週追加分)【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:麻しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 3例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	9.56	392
	② 水痘	1.88	77
	③ 手足口病	1.63	67
	④ 流行性耳下腺炎	1.07	44
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.71	29
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

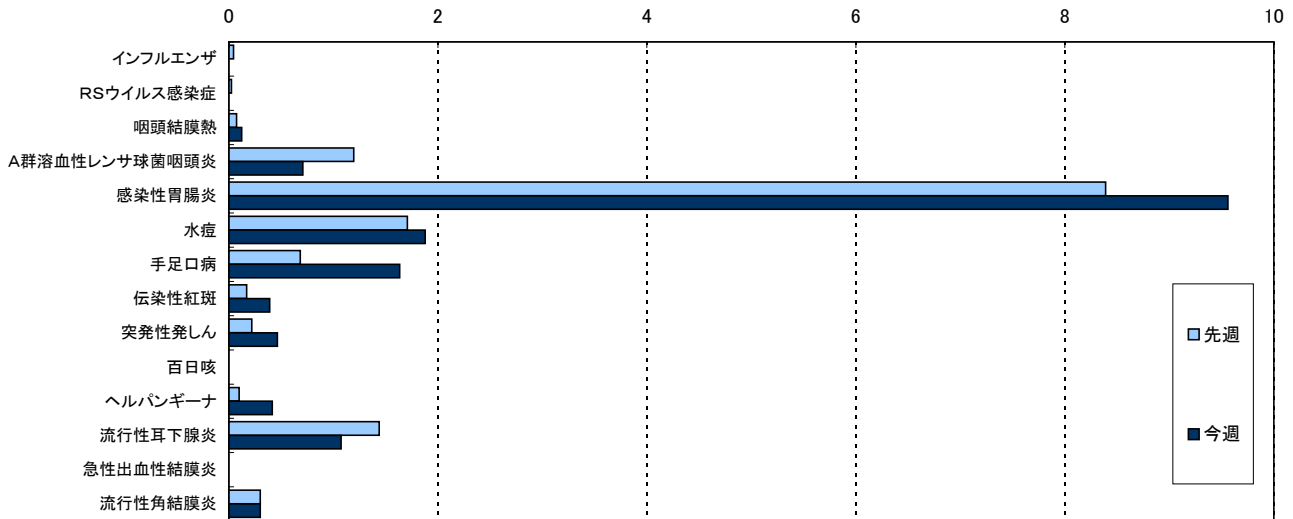
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

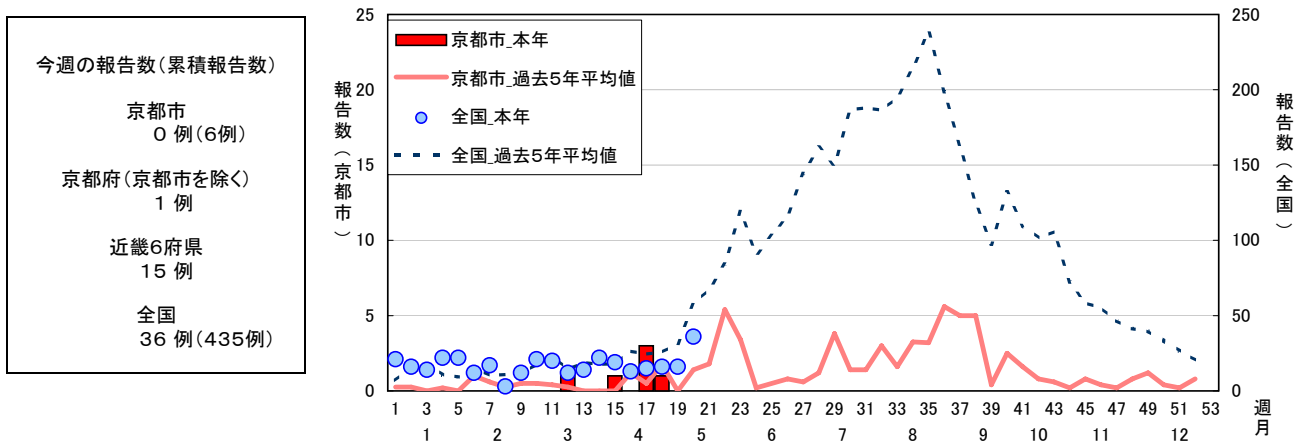
(注) 京都市のデータは、平成22年5月27日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第20週)と先週(第19週)の定点当たり報告数の比較

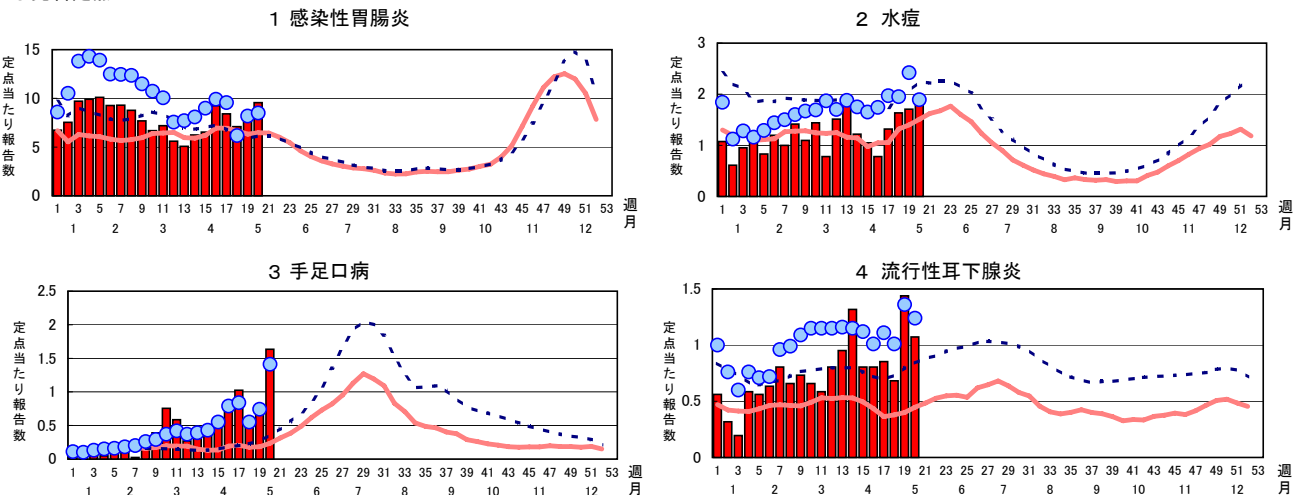


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

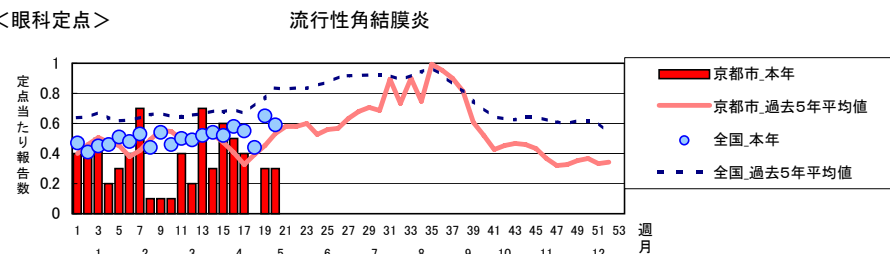


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第20週(5月17日～5月23日)トピックス: <手足口病>

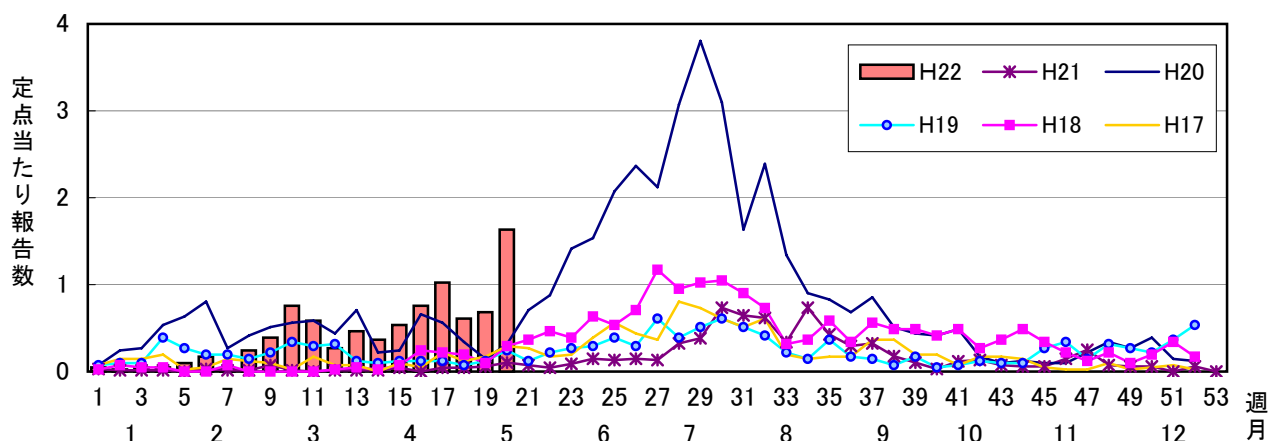
手足口病の定点当たり報告数は、1.63(67例)で、先週(0.68)の2.4倍となっており、本年で最も多くなっています。愛媛県、山口県では、今週、定点当たり報告数が警報開始基準値(5.0)を越えています。手足口病は、例年、夏季に流行のピークが見られ、京都市においても、今後、更なる患者数の増加が予想されます。

年齢階級別割合をみると、1歳が最も多く、31.3%(21例)を占めています。次いで2歳(17.9%)、3歳(16.4%)の順に多くなっています。

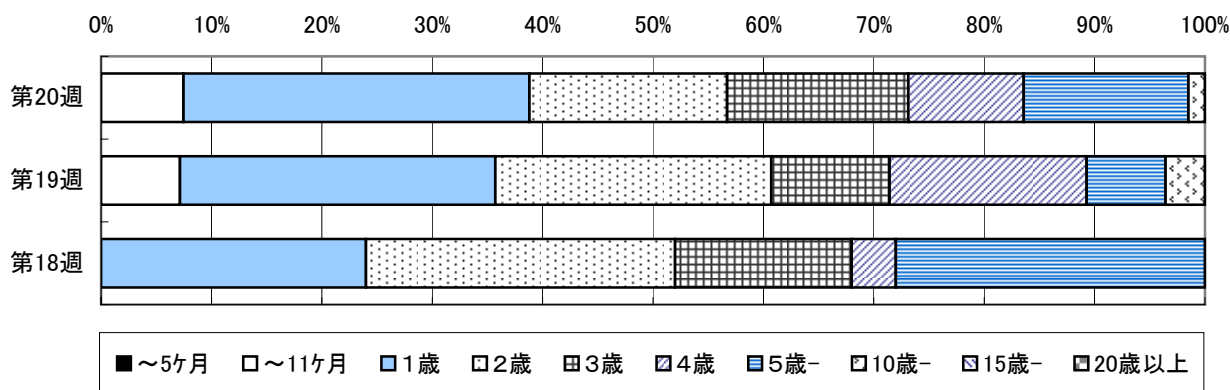
行政区別にみると、南区、西京区が多くなっています。

京都市衛生環境研究所で検査を実施した手足口病の方の検体からは、中枢神経合併症の発生率が他のウイルスに比べて高いとされるエンテロウイルス71型(EV71)が検出(第3週、第8週)されています。今後の動向に御注意ください。

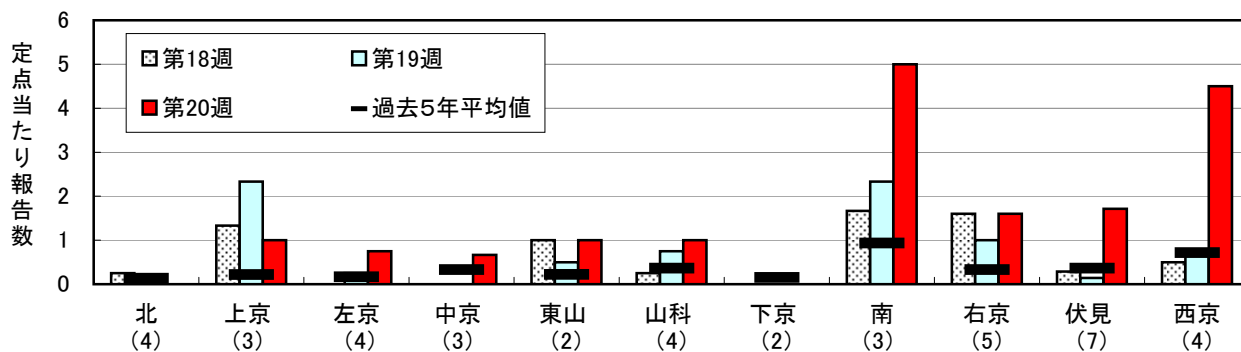
本市の定点当たり報告数 推移(平成17年～平成22年20週)



年齢階級別構成割合



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数